

■基礎的な確認事項

項 目		要確認事項
原子炉内の冷却状況	1～3号機	* 温度の推移、冷却系停止時の温度上昇予測（1時間当たり温度上昇）、制限温度到達までの時間 * 再臨界のリスクとその対応（従来からの変更点があれば）
使用済燃料の冷却状況	1～3号機使用済燃料プール	* 使用済燃料の保管量、冷却系停止時の温度上昇予測（1時間当たり温度上昇）、制限温度到達までの時間
	5～6号機使用済燃料プール	
	共用プール	
	キャスク仮保管設備	* 使用済燃料の保管量 * 警報等の発出状況とその原因
放射性物質の放出状況	原子炉建屋からの放出	* 各号機建屋からの新たな放出の状況（敷地境界モニタリング結果）
	海洋への放出	* 港湾内外の海水モニタリング結果
緊急時対応能力		* 緊急時対応訓練の実施状況 * 緊急時用資機材等の導入等（従来からの変更点があれば）
要員確保・作業環境改善		* 作業要員の確保状況 * 作業環境の改善状況（従来からの進展等があれば）

■廃炉工程の進捗に伴う確認事項

項 目	●現状（18年6月末現在）○H30年度中の作業予定	要確認事項	
使用済燃料プールからの燃料取り出し	1号機	●防風フェンス設置完了(2017.12.19)。オペフロ北側のガレキ撤去開始(2018.1.22)。また、外周鉄骨撤去のため支障物除去、遠隔装置用設備の設置等を実施。 ○外周鉄骨の撤去を開始。7月からプール周辺線量測定。	* 今後の作業予定、及び想定されるリスクとその対応
	2号機	●オペフロ内アクセス用開口設置作業を完了(2018.6.21)。 ○遠隔ロボットによるオペフロ内調査を開始予定。 ○オペフロ上の残置物移動、片付け	* オペフロ内調査の調査結果（実施済みであれば） * 今後の作業予定、及び想定されるリスクとその対応
	3号機	●2017年1月より燃料取り出し用カバー・燃料取扱設備の設置開始、2018年2月にカバー設置完了。 ●燃料取扱設備クレーン試運転中に異常発生(2018.5.11)。 ○2018年度11月中より燃料取り出し開始予定。	* 燃料取扱設備クレーン異常の原因（根本原因）分析結果 * 今後の作業予定（特に燃料取り出し作業の予定）、及び想定されるリスクとその対応
	4号機	●2014年に取り出し済み。	-
	5/6号機	○新燃料搬出への対応	* 新燃料搬出の計画、及び想定されるリスクとその対応
燃料デブリ状況把握・取り出し工法検討	1号機	●格納容器内部調査で、格納容器底部状況を撮影。 ●ミュオン測定で、炉心部に大きな燃料がないことを確認。	* 今後の作業予定、及び想定されるリスクとその対応
	2号機	●格納容器内部調査で、ペDESTAL内のグレーチング脱落・変形や、燃料デブリを含む堆積物がペDESTAL底部に堆積している状況を確認。 ●ミュオン測定から、燃料デブリの大部分が圧力容器底部に存在と推定。 ○格納容器内圧力の低減を図るため段階的に減圧。 ○格納容器内部調査（堆積物の可動性調査）を実施。	
	3号機	●格納容器内部調査で、構造物・壁面に損傷確認されず。線量は他号機と比べて低いことを確認。 ●ミュオン測定から、炉心域に大きな塊なし、圧力容器底部に一部燃料デブリ存在の可能性。	
汚染水対策	ALPS等	●汚染水(RO濃縮塩水)の処理完了(2015.5)。ストロンチウム処理水の処理を実施中。	* 処理施設の稼働状況、これまでの処理量 * トリチウム水の今後の取扱い見込み
	サブドレン	●サブドレン処理システムの強化策（集水タンク、一時貯水タンク増設等）により処理容量増強(2018.4～)。 ○移送配管二重化のため配管・付帯設備設置中。 ○1/2号機排気筒周辺サブドレンのトリチウム濃度上昇への対応	* 凍土壁及びサブドレン等による重層的な汚染水対策の効果（2018.3.7汚染水対策委員会の評価結果）
	凍土壁	●2018.3、深部の一部を除き完成。 ○未凍結箇所の補助工法を実施予定。 ○豊水期の評価を実施。	
	大雨時汚染水発生抑制	●大雨時の建屋への雨水流入経路として排水管逆流を抽出、逆止弁設置。 ○上記以外の流入経路を抽出、対策実施。 (ex 2号機原子炉建屋の屋根からの雨水流入)	* 大雨時の汚染水発生状況、その対応状況 * 流入経路の抽出・対策の状況
	フランジタンク解体・リプレース	●H1東、H2、H4、H5、H3、Bエリアのフランジタンク解体完了。H6エリアの解体を実施中。	* フランジタンクのリプレース状況
	その他	1/2号機排気筒	●1/2号機排気筒を無人化施工で解体するため、解体装置を製作中。 ○8月頃より現場作業の実証試験を開始予定。
	津波対策	○千島海溝津波への対応	* 津波の想定規模とその対策の考え方・進捗状況